

(1) 同志社女子大学を志望校・受験校と決めた理由。

私はもともと被服や食物などに興味があり、大学ではそれを中心に学んでみたいと思っていました。

京都に憧れており、同志社女子大学のオープンキャンパスに来た際に、京都の食や文化が学べるし、歴史のあるキャンパスで学びたいと思いました。

(2) 推薦入試対策としての受験勉強の進め方について。

〔1学期〕

1学期は部活を続けていて、土日も練習があり、決まった勉強時間を確保することが難しくなっていたので、どの受験でも必要は、そして特に苦手だった英語を重点的に勉強しようと思いました。

隙間時間でもできる単語や連語をまず覚えて、速読英単語などで使い方を確認して勉強していました。

〔夏休み〕

高校の宿題で出されたセンター試験の類似問題を毎日解くようにしました。

同志社女子大学の公募推薦もマーク形式なので、センターの類似問題で慣れるようにしました。

類似問題を解き終えたら、センター試験の過去問を解いたり、応用問題を今までの力がついているか確認しました。

〔2学期～入試直前〕

公募推薦入試の形式に慣れるために、受験科目を国語と英語に決めて、同志社女子大学の過去問を10年分ほど解きました。英語の点数が全く伸びなかったため、同じような問題形式の他大学の問題を解いたり、一冊入試の問題を抜粋して解いたりして、とにかく解き方を練習しました。

入試直前は、新しい問題が解けずに速読英単語を読んだり、今まで解いた問題、特に伸びなかった年のものなどを中身に解き直したりしました。単語の使い方なども覚えるようにしました。

(3) この一年間の受験生活において、受験勉強と高校の行事やクラブ活動の両立、健康面での注意、テレビやスマートフォン等との付き合い方、スランプとその対処法について。

勉強時間が取りやすい夏休みに入院してしまったり、英語が伸びるどころか悪くなってしまったりと、何度も諦めよう、志望校を履きかえよう、と悩んだりしたこともありましたが、しかし、オープンキャンパスに参加した時に今出川キャンパスで学びたいと思っ、気持ちを何度も思い出し、諦めたいようにしました。

塾の自習室に行き勉強をし、スマートフォンの電源は切っておくなど、テレビやスマートフォンを極力観ないようにはしました。受験1週間前は、今までの勉強時間をいかに確認するだけにして早く寝るようにはして体調を整えるようにしました。

(4) 受験を終えて、受験生のみなさんへのメッセージ。

私は、本当に英語が苦手な、過去問では半分も取れないということが続き、何回もやめたいと思いました。しかし、塾の先生などが熱心に指導して下さり、なんとかやりこることができました。

最終的には、マーク模試で英語が他の教科を引っぱり抜ける教科になりました。継続すること、努力すること、諦めたいことは非常に大事だとわかりました。今がんばったら、将来の道がぐんと増えると思います。がんばってください!